

令和5年度 第31回倉敷ケーブルテレビ番組審議会 議事録

1 開催年月日 令和6年3月13日(水)

2 開催場所 株式会社倉敷ケーブルテレビ 1F セミナールーム

3 委員出席

委員総数 10名

出席委員数 10名

出席委員名

伊東香織 倉敷市長 代理/くらしき情報発信課 課長 安藤俊晴

柴田義朗 玉野市長 代理書面/秘書広報課

片岡聡一 総社市長 代理書面/市政情報課

仁科康 倉敷市教育長

井上峰一 倉敷商工会議所会頭 代理/専務理事 坂本万明

尾崎茂 児島商工会議所会頭 代理書面/総務課長 細羽浩平

山根一人 玉野商工会議所会頭 代理書面/指導課長 高嶋和成

清水男 総社商工会議所会頭

赤木龍 倉敷青年会議所理事長 書面

渡辺一史 児島青年会議所理事長

放送事業者側出席者名

伊藤享 代表取締役社長

武居賢次郎 常務取締役

堀川久志 放送制作部長

事務局

水野雄介 放送制作部広告企画営業課長

岡村祐紀 放送制作部報道制作課長

藤中宏充 放送制作部メディア編成制作課長

藤原崇 放送制作部メディア編成制作課

4 議 題

<番組審議>

▽「倉敷屏風祭生中継」

▽「おまつりニッポン～倉敷屏風祭～」

※資料1【DVD1枚】

<報 告>

▽2023（R5）年度自主制作番組 実績

▽2024（R6）年度番組編成

5 審議内容

◆「倉敷屏風祭生中継」

◆「おまつりニッポン～倉敷屏風祭～」

【伊東香織 倉敷市長】代理／安藤俊晴 くらしき情報発信課課長
私も倉敷屏風祭に参加する倉敷素隠居保存会に所属していて、
自分たちの活動を倉敷の伝統と合わせてしっかりと紹介してくれている。
倉敷芸術科学大学の学生たちが関わる「未来プロジェクト」の一環として、
創作屏風の展示も行われており、学生の思いなどもしっかりと取材、伝えられている。

生中継ということで、どうしようもないことであるが、
出演者の岡荘一郎氏の話に他の音声重なってしまうことがあった。

コンパクトに倉敷の魅力を紹介してくれた。
平成14年に岡氏が祭りの復活開催をお願いに町内をまわっている映像もあり、
KCTが普段から行っている映像取材が活かされていて、非常に良かった。
最近、テレビ局、新聞社など地元メディアは人員削減されている。
そのような状況の中で、ケーブルテレビで地域の日々の出来事を記録してくれるのは非常にありがたい。

【仁科康 倉敷市教育委員会教育長】
倉敷の子ども達の活動を色々な角度から紹介してくれて、子どもたちの励みになっている。
学校でも働き方改革が進められている。
今後の課題は学校と地域の繋がりの連携を両立させることが課題であり、地域の行事に教師が子ども達を引率して参加ができない状況になりつつある。

地域住民の力で子ども達を受け入れられるような仕組みづくりが必要であり、現在はさほどクローズアップされていないが、地域の公民館活動や趣味の活動なども取り上げてほしい。

屏風祭については、このような取り組みが報道されることはうれしく、ありがたい。小学校でも倉敷の文化に関する副読本を作成して、倉敷のことを知ってもらうことに力を入れているが、子ども達が地域の行事に積極的に参加していく、一つのきっかけ作りになり、非常にありがたい。

生中継に出演した中国人留学生も倉敷の文化を吸収していて、地元の方は地域の魅力を見直している発言を見るとうれしく感じる。

【井上峰一 倉敷商工会議所会頭】代理／坂本万明 専務理事

生中継をすることで会場への来場を促す効果、また、町屋を含めた主要な屏風紹介はメディアとしての役割であると思う。

番組は、倉敷美観地区という学ぶ場に連れて行ってくれる役割があり、新しい気づきを市民に促してく、改めて歴史を学ぶ時間として見られた。

町家や美観を大切にするという機運を醸成していく効果も期待される。

また、この期間だけしか公開されない町家の中が、住人の解説付きで見られることは放送する意義がある

大学と地域との連携は、より地域を知ってもらう、好きになってもらう、それにより郷土愛を育んでもらう効果があると感じた。

屏風祭りは極めて倉敷らしい祭り

新しい視点で次世代に繋げていくには、地元の人と外部から来た人との上手なコラボレーション、アライアンスで検証をしつつ新しいものを造っていけると感じた。

【清水男 総社商工会議所会頭】

番組内容としても、祭りを20年以上も続けてこられたことを紹介できたのが良いと感じた。生放送であった関係からか、中継までに時間がかかったり、BGMが突然途切れたりしていた。音はフェードアウトすることができればよかったのでは。

生放送で観るのにはいいが、番組として観るのであれば、その辺りに工夫をしてほしい。

子ども達もたくさん出演・参加しており、だんだんと輪が広がってきていると感じた。

【渡辺一史 児島青年会議所理事長】

若い人、外国人が出演していたのはいい取り組みだと思った。

もっと小中高生を巻き込んでいくことができればと感じた。

自分たちや子どもの作品が展示されていれば、祭りに足を運んでもらうきっかけとなる。自分と街と歴史との接点やきっかけがあれば、非常に良いと思うので、もし、そういった取り組みがあれば、番組で紹介できればより良くなると思った。

私も YouTube や TikTok 世代であり、番組が長すぎるとチャンネルを変えられてしまう可能性がある。

素隠居の特集をしているコーナーがあったが、例えばCMでコーナーごとに内容の予告を出してあげるとか、生中継であれば、画面に QR コードを表示させ、読み取ってもらうことで、「屏風の作り方」動画など、事前に収録した過去の関連動画を見せることができれば、より面白くなると思うし、色々な情報を一つの画面の中で提供できるのではないか。

私がアメリカに住んでいた関係があり、インバウンド目線で見ることができた。コンテンツをデジタルアーカイブ、文化の副教材として毎年追加がなされ、見ていけると思う。

地域の若い人たちの為にもなるし、同時に海外の人たちにとっても価値のある、倉敷の資産となるのではないか。

「KCT コミュニティ放送は、まちづくりの合意を形成するための道具である」ことに加えて、さらに視野を広げて若い世代やこれから多様性に目を向けた番組作りをしてもらえる、倉敷の魅力を発信する際に有意義であると思う。

A. 【放送制作部部長 堀川久志】

情報発信する既存メディアの環境が変わってきている。

新聞の取材力、コンテンツが減っている、また、民放は共同取材を場面に応じて行っている部分もあり、今後より一層ローカル情報発信が必要になっている。

KCT では市民目線でこれまで取り上げていなかったような内容も含め独自性を出そうとしている。

伝え方、郷土愛や文化を次世代、外国の方に伝えていけるかを引き続きしっかりと理解した上で、コミュニティコンテンツを地域内と外側に発信できればと考えている

中継のトラブル等の原因は全て把握している。

人為的な操作ミスによるもの、この辺りについても他の現場でも繰り返さないように、しっかりとフィードバックして、可能な限り高品質な番組を届けていきたい。

【柴田義朗 玉野市長】代理書面／秘書広報課

「倉敷屏風祭生中継」

屏風祭を通して、町並みや暮らし、文化などが紹介され、美観地区等の歴史が深く感じられた。

また、歴史ある屏風から現代の学生の作成する屏風まであり、屏風の作り方や作者の思いなども紹介され、未来につながる興味深い内容であった。

「おまつりニッポン～倉敷屏風祭～」

屏風祭に関わる人々の思いのほか、食や素隠居など文化や歴史がコンパクトにまとめられており、祭りの様子がよく分かる内容だと感じた。

【片岡聡一 総社市長】代理書面／市政情報課

「倉敷屏風祭 生中継」

- ・倉敷の歴史や文化を守り未来へ残していきたいという関係者の思いが伝わる温かみのある番組でした。
- ・地域全体が関わって祭りを盛り上げようとする気持ちが伝わりとともに、別の地域の視聴者であっても、この番組が自分たちの地域について語り合うきっかけになるのではないかと感じています。
- ・地元の小学校の創立 150 周年に合わせた展示や屏風作成に取り組む学生など、若い世代に関する内容が盛り込まれており、幅広い世代へ祭りの PR ができたのではないかと思います。
- ・放送のタイミングが、2 日間ある祭りの初日ということで、翌日の来場者数の増加が見込まれたのではないのでしょうか。

「おまつりニッポン～倉敷屏風祭～」

- ・祭りの紹介映像に、生放送での素材がふんだんに使われていて、フレッシュな情報を届けられているのがよいと思います。
- ・柳家緑也さんの語り口が、屏風祭の雰囲気とあって楽しく視聴できました。15 分という時間もちょうどよかったです。
- ・倉敷を知らない人への PR はもちろんのこと、地元の視聴者にとっても新たな発見がある内容だったと思います。

【尾崎茂 児島商工会議所会頭】代理書面／総務課長 細羽浩平

「倉敷屏風祭生中継」

- ・井上家住宅からの中継型式での進行が、倉敷らしさ。屏風まつりの雰囲気と重なって大変良いと感じた。
- ・大原あかね理事長からの解説・説明が分かりやすく、見る方に興味を持ってもらえる。
- ・屏風紹介時の音楽(バックミュージック)やテロップ解説も良いと感じた。
- ・学生が参加し、まちづくりイベントへ参加している特集も良かった。
- ・番組の最後等(ミニコーナー)で、倉敷美観地区の飲食店の紹介コーナー等があれば、

来訪予定の観光客の方も喜ばれるのでは。(訪れるきっかけのひとつになるのでは)
・屏風を楽しむポイントや、そもそも屏風とは・・・など初心者の方でも興味を持つてもらえるような解説があっても良いと感じた。

「おまつりニッポン～倉敷屏風祭～」

- ・ナレーションも分かりやすく、美観地区の伝統的な建物と屏風を同時に楽しめるというコンセプトがよく伝わった。
- ・屏風だけでなく、岡山ばら寿司の特集もあることで、来訪予定者の方もより楽しめる。阿知神社の詣出客をもてなすために始まったなど、歴史背景も知ることが出来る。
- ・岡会長の「屏風祭」立ち上げへの思いなどのインタビューも、とても良いと感じた。

【山根一人 玉野商工会議所会頭】代理書面／指導課長 高畠和成

「倉敷屏風祭生中継」

倉敷屏風祭の様子を伝えるレポーターの装いが印象に残っています。着物姿のレポーターとおしゃれにさりげなく飾られた帯締めは、日本の伝統を楽しんでいる様子が伝わってきました。

レポートはそれぞれの家の歴史・思いを感じました。古い街並みを多くの人に来てもらい楽しんでもらいたい思いが伝わってきました。また、作品の愉しみ方もわかりました。

倉敷芸術科学大学の学生は屏風を自分から作り自分の心を表現しており、見てもらう側もともに楽しみ、みんなで繋いでいく屏風祭りの様子が伝わってきました。

藪戸と格子戸を開けて物を売っていた様子は動画でしか見ることができない貴重な映像でした。

作品が展示している地図での場所と作品を映像で流すことで、美観地区を俯瞰しながら、屏風を鑑賞できました。映像が屏風の前に飾られた生け花から屏風に移動することで、屏風を展示されたそれぞれの家の心づかいが感じられました。

実際に美観地区を訪れて町歩きを楽しもうと思いました。

「おまつりニッポン～倉敷屏風祭～」

地元の大学生が制作した創作屏風の展示の紹介やばら寿司の起源など、興味深いエピソードや逸話がイラストなどを交えつつ落語の形で語られることは、視聴者が祭りの背景や文化を身近に感じられ、地元住民が祭りに参加・協力するモチベーションも高められていると思いました。

【赤木龍 倉敷青年会議所理事長】書面

「倉敷屏風祭生中継」

屏風祭について知らない方でも参加してみたいくなるような番組構成だったと思う。

また、倉敷芸術科学大学の大学生にも取材をし、作品を紹介するなど、若者世代へのアプローチは良い取り組みだと思います。

「おまつりニッポン～倉敷屏風祭～」

地域の歴史や文化が知れる番組構成だと思いました。

◆2024（R6）年度 番組編成について 意見・感想

【伊東香織 倉敷市長】代理／安藤俊晴 暮らしき情報発信課課長
倉敷市では選挙の投票率が低下しているため、
選挙特番などでしっかりと伝えてくれるのは大変ありがたい。

【仁科康 倉敷市教育委員会教育長】

たくさん子ども達の活躍の場を取り上げてくれている。
今後も子ども達を主体とした活動を応援してほしい。
中学校区に一つ、地区公民館がある。
公民館はお年寄りばかり集まるイメージがあるが、
子ども達と地域の人たちが一緒になってできる活動を少しでも多く取り上げてほしい。

【井上峰一 倉敷商工会議所会頭】代理／坂本万明 専務理事

質より量であり、数が集まらなると質も上がらないと思う。
市民とのつながりを強くしていく意味でもしっかりと取材活動を続け、コミュニティチャンネルに市民全員が登場する気持ちで取り組んでほしい。
地域のプロスポーツチームと街づくり連携させ、どう街づくりに反映させるかを倉敷商工会議所として取り組んでいる。
メディアとしても、プロスポーツと街づくりというテーマで取り組んでほしい。

取材時に常に自分事としてとらえる、当事者意識で取材することが重要であるとする。

【清水男 総社商工会議所会頭】

能登半島地震が発生した。
どうやって自分を守るか、家族を守るかが問題になってくる。
特に倉敷地域は標高が低い地域が多く津波や河川氾濫の恐れもある。
いつ起こってもおかしくない災害に備え、危機意識を持ってグループ局と共同防災番組の制作に取り組んではどうか。

【渡辺一史 児島青年会議所理事長】

もっともっとローカルにフォーカスした番組があると個人的には面白いと思う。

街の歴史、街にある団体、頑張っている人たちを定期的に紹介できると、民放にはないケーブルテレビならではの良さが一番出てくると思う。

過去・現在・未来の視点で明確に作る事ができれば、KCT のことをもっと好きになると思う。

個人的には YouTube で公開されている大食い番組が大好き。

KCT のコンテンツ力は素晴らしいと思う。

インターネットで検索したときに KCT のコンテンツが出てくると、KCT が制作した他のコンテンツも見てみたいと思うのではないかな。

A. 【放送制作部部长 堀川久志】

子ども達がどう地域の人達と触れ合うことができるか、ローカルにフォーカスして引き続き取材活動を続けていきたい。

昨年度までは、倉敷市真備町の水害を受けて、台風や大雨時への対応をどのようにするか、具体的な行動計画や訓練を行ってきたが、地震については対応ができていなかった。

今年度の後半から防災意識が高く、先進的な取り組みをしているケーブルテレビ局との情報共有や視察を双方でするなど、取り組みを進めているところ。

新年度から組織改編を行い、様々な番組を企画・開発していく体制としている。

また、加入営業を大切にしつつ、コンテンツ販売も推進していく。

地震への対応は、若いスタッフも入れて報道制作課を中心にワーキンググループを再設計した。

ご意見、ご指導をいただきながら、弊社の活動にご協力をいただきたいと思います。

A. 【伊藤享 代表取締役社長】

多くの審議委員からもご意見をいただいたように、日々の記録の継続的に続けていきたいと思う。

S N S を活用した新しい発信方法にもっと力を入れていきたい。

6 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法 倉敷ケーブルテレビホームページ

公表の内容 審議内容抜粋

公表年月日 令和6年4月1日(土)～